

3月

2025年

22日

土曜日

特別天然記念物

タンチョウとの

共生を考える

北海道大学理学部5号館大講堂

14時—16時

参加費無料

主催 | 環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所

後援 | 長沼町、鶴居村 協力 | 日本航空株式会社、特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ

道央に 舞い戻る タンチョウ

北海道の鳥、特別天然記念物のタンチョウは
絶滅の危機から道東での保護により、生息数を1,800羽に回復。
2000年代からは、道央への飛来や繁殖の記録が増えています。
道央と道東では、産業やくらしも異なりますが、
タンチョウという鳥への認識も、保護の歴史を重ねてきた道東と
徐々に増えている道央では違いがあります。
今後、道央のタンチョウと人は、どのようにくらすことができるのか。
古文書等の記録や、タンチョウ保護の歴史がある鶴居村、
近年定着が見られる長沼町での取り組みを参考に
人とタンチョウとの共生について考えます。

道央に 舞い戻る タンチョウ

プログラム

14:00 開会・主催者挨拶

環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
所長 岡野 隆宏

14:05 開催趣旨・話題提供

タンチョウの最近の分布状況について

環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
野生生物課 生息地保護連携専門官 古川 徹

14:15 基調講演I

鶴居村のタンチョウのこれまでとこれから 「北海道のタンチョウ」へ向けて

鶴居村長 大石 正行

タンチョウの生息地に因んだ名の「鶴居村」。昭和27年、33羽のみ確認されたタンチョウに厳冬期に餌を与え、保護と共生を続ける。先人たちが絶滅危機を救った歴史を誇りとし、将来にわたり共生する「タンチョウ鶴居モデル」を掲げ、すべての人々にタンチョウが愛されることで、地域産業の振興と発展に寄与することを目指す。

14:55 基調講演II

古文書から探る 道央のタンチョウと人とのかかわり

北海道大学大学院准教授 久井 貴世

15:15 座談会

「タンチョウとの共生を考える」

パネリスト

鶴居村長 大石 正行

長沼町長 齋藤 良彦

日本航空株式会社 執行役員 北海道支社長 林 浩一

NPO法人 タンチョウ保護研究グループ 理事長 百瀬 邦和

コーディネーター

環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
所長 岡野 隆宏

16:00 閉会

日時

2025年3月22日(土) 14時~16時

会場

北海道大学理学部5号館大講堂

北海道札幌市北区北10条西8丁目

JR「札幌駅」下車徒歩15分

市営交通・地下鉄南北線「さっぽろ駅」下車徒歩15分

「北12条駅」下車徒歩8分

駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください

対象

一般市民、企業、行政機関等

申し込み

事前申込制、先着順(定員200名)、参加費無料
二次元コードよりお申し込みください



お電話・FAXでも受け付けています。

氏名、所属、連絡先(電話番号又はメールアドレス)を
下記お問い合わせ先までお知らせください

お問
い合
わせ

(公財)日本生態系協会 担当:柿本

環境省釧路自然環境事務所業務請負者

171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20音羽ビル

電話 03-5951-0244 FAX 03-5951-2974